

令和 2 年 4 月 6 日
校 長 決 定

令和 2 年度 東京都立砂川高等学校学校経営計画（定時制課程）

東京都立砂川高等学校
校長 南 齊 道雄

I 目指す学校

教 育 目 標	自 立	責 任	敬 愛
---------	-----	-----	-----

本校は全日制普通科の学校から、多摩地域で唯一の昼夜間定時制課程と通信制課程を併置する特色ある都立高等学校として改編以来 15 年を迎える。

本校の特色は、生徒が自由に自分のペースで学べるシステムと、定時制ならではの個に応じたきめ細かな指導にある。四大進学から自立支援まで、多様な生徒の多様なニーズに応え、生徒に本校の教育目標である「自立、責任、敬愛」、3つの力を育成することが本校の使命であり目標である。

II 中期的目標と方策

本校が中長期的に第一に取り組まなければならないことは、不登校・中途退学対策である。不登校に対しては、学校でのきめ細かな対応はもとより、関係機関や民間の取組と連携した対策を構築し、中途退学に対しては、自立支援チーム派遣事業を活用し、福祉や心理などの専門家と連携した新たな取組を導入し、関係機関と連携した支援体制を充実する。

加えて、平成 34 年度入学生から本格実施される新学習指導要領に向けた教育課程の見直しを進めることを念頭に以下 7 点の目標とその方策を定める。

1 進学・自立志向を教育の柱とする

ア 進学・自立志向を教育の柱とする昼夜間三部制の単位制普通科高校を創る。

イ 生徒が自己の興味・関心、進路希望等に合わせて、自主的に科目を選択し自分のペースで学習できるよう、教育内容・方法の充実と履修形態の多様化・弾力化を図る無学年制の学校で、どの部の時間帯においても 1 日 6 時間授業に取り組むことにより 3 年間で卒業を可能とする。

ウ 知育徳育体育のバランスのとれた教育活動を施す。

2 少人数・個別指導等、個に応じたきめ細かな指導の充実した学校

ア 全人教育を目指し、ホームルーム、部活動、学校行事などの学校生活は、全日制普通科の学校と同様に実施する。

イ 定時制課程の特性である 1 学級 30 人定員制を生かし、英語・数学・国語における習熟度別授業、選択科目で少人数授業を展開し、個に応じたきめ細かな学習指導ができ、個別指導で一人一人の生徒に目標に向かってチャレンジする力を育てる。

ウ 授業は、英語・数学・国語の大学進学のための特別進学講座「インテンシブ」から、学び直しを含めた基礎・基本から学べる「ベイシック」講座までを準備する。また、長期休業期間等を実施する多様な講習で、四大進学から就職まで、あらゆる生徒の学力や進路希望に合わせた学習や補習を行う。

エ 「主体的・対話的で深い学び」を学習に取り入れ、生徒が探求的学習の力をつけられるよう、授業改善に積極的に取り組む。

3 体系的なキャリア教育を推進する

ア 3年間または4年間を見通した「砂川高校キャリア教育全体計画」の下に、体験的・実践的なキャリア教育を体系的に推進する。

4 安全・安心な学校をつくる

ア 一人一人の生徒が、安心して楽しく学べる学校をつくる。そのため、ルールや身だしなみについては、全教員が全校体制で組織的かつ厳格な指導を行う。学校生活のきまりやルールは「時を守り、身だしなみを整え、礼を正す」ことを全生徒に指導徹底する。

5 生徒一人一人が自分の居場所、自分が輝く場所がある学校をつくる

ア ホームルーム活動、部活動、行事、生徒会活動などのさらなる活性化を図り、生徒一人一人が自分の居場所・自分が輝く場所のある学校を創る。特に、部活動では、人間関係構築力やコミュニケーション能力、社会性の育成に重点を置くこととする。

6 学校として統一観のある系統性をもった組織的・継続的な教育活動を行う体制を構築する

ア 学校経営において、組織的な学校運営体制の強化と確立を図る。

イ PDCAサイクルに基づく学校評価と改善を推進する。

7 校長の学校経営を支える経営企画室

ア 経営企画室は、学校経営計画の下、教育の質を高め校長が目指す学校づくりを事務的な側面から推進することを目標として、経営企画室長が別に定める経営企画室の組織目標により運営していく。

イ 行政職員の人材育成に係る新たな取組として、自ら育つ姿勢を重視したOJTを推進する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 重点目標

(1) 生徒一人一人の望ましい自己実現を図るため、不登校解消率の向上と不登校発生率の減少（不登校傾向等、出席不振者を含める）に向けた総合的な教育施策を学校全体で展開する。

(2) 企画調整会議・教科主任会等での協議事項について全教員への情報共有を徹底し風通しのよい組織体制を構築するとともに、学校運営の効率化を図り教職員のライフ・ワーク・バランスに配慮した働き方改革を推進する。とりわけ今年度は年次担任の負担軽減に着目し、副担任制度の活性化等の具体策を試行する。

(3) 新学習指導要領や高大接続改革に向けた新教育課程を作成する。砂川高校グランドデザインに基づき、生徒が能動的に参加できる授業実践を通じて、生徒の思考力や表現力を向上させる。

2 教育活動の目標と方策

【学習指導】

(1) 一人一人の生徒の学力を確実に伸長させる

ア 「学力スタンダード」に基づく各教科の到達目標を明示するとともに、生徒の学習到達状況を検証し、教科会や教科間、年次等で情報交換・情報共有、組織的に個々の生徒の基礎・応用力の向上を図る。

イ 習熟度別授業の充実と改善により、きめ細かい指導で学力の伸長を図る。そのため、英語・数学・国語における習熟度別授業（インテンシブ講座、ベーシック講座）を実施する。

ウ 生徒に対する家庭学習の定着指導を年次、教科等で連携して行う。

エ 「学力向上研究校」として、生徒の基礎学力学び直し（「校内寺子屋」事業）に取り組む。

オ 各種資格検定受検など学校外の学修への取組を推奨し、個々の頑張りを認め励ます。

(2) 新学習指導要領の告示を受け、教育課程の見直しと授業改善に取り組む。

ア 各教科会を中心に新学習指導要領の検討を実施し、教育内容及び方法の改善に組織的に取

り組む。

- イ 「主体的・組織的で深い学び」の観点から、校内研修や相互授業観察、指導教諭の模範授業参観により授業改善に取り組む。
- ウ 教科主任会または教育課程委員会と各教科会との情報連絡を活発化させ、教育課程の改定に向けて検討を始める。

(3) 学校生活全般を通して読書活動を推進する。

- ア 言語活動として、幅広い教養と豊かな心を育むとともに、集中力や生活規律の育成を目指して、全ての教育活動を通して読書活動を推進する。
- イ 課題図書指定、ビブリオバトル等、様々な読書推進活動に取り組む。

(4) グローバル社会で必要となる英語力や国際感覚を養う。

- ア 4技能のバランスの取れた英語学習を推進するとともに、JETプログラムによる外国人や外国人指導者と教員とによる指導を充実させる。
- イ 日本の伝統文化に関する理解を深め、国際社会で活躍する日本人としての自覚や誇りの涵養に努める。

【生活指導】

(1) 都立高校生活指導指針に基づき、規範意識やマナーを体得した生徒を育成する。

- ア 時間厳守、身だしなみ、礼儀、情報モラルなど、I部・II部・III部の統一した生徒指導を実践し、規範意識の醸成を図る。
- イ 薬物乱用防止教室やセーフティ教室等を計画的に実施する。

(2) 生徒の心身の課題把握に努め、支援充実を図る

- ア YSW、スクールカウンセラー、保健相談部との連携の下、校内の教育相談体制の充実、拡充を図るとともに、関係機関との連携を強化する。
- イ 合理的配慮を踏まえた特別支援教育体制を確立し、特別支援Co.を中心に推進する。
- ウ 教育活動全般を通じて、自他を問わない生命尊重の価値観を養い、自殺防止に資する教育を推進する。

(3) いじめ・体罰を根絶し、安全・安心な学校づくりを推進する。

- ア 「砂川高校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年間3回実施する等、いじめの防止及び早期発見に努める。
- イ 学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、生徒情報の共有を徹底する。
- ウ 体罰防止について、校内研修を実施し、全校体制で体罰のない学校づくりを維持する。

【進路指導】

(1) 系統的なキャリア教育を進め、一人一人の生徒の進路実現を確実に図る

- ア 進路指導部と各年次との連携を密にし、生徒一人一人の進路希望を把握し、その実現を図る。
- イ 「砂川高校キャリア教育年間指導計画」に基づきキャリア教育を計画的・系統的に実施し、さらに充実させる。
- ウ 総合的な探求の時間や教科「人間と社会」において、キャリア教育を充実させ、生徒の進路実現に資する。
- エ 外部と連携した生き方を考える授業やガイダンスを通して、社会とのつながりを自覚させ社会人として生きて働く力を育む。

【学校運営】

(1) 教育活動全般について組織的な運営と効率化に努め、教職員の健康とライフ・ワーク・バランスに配慮した持続可能な学校運営体制を構築する。

- ア 企画調整会議と年次会や分掌部会との連絡・調整機能を強化し、効率的な学校運営を推進する。
- イ 教育活動は組織的な運営を前提とし、負担が個人に偏ることがないように留意する。

- ウ 年次会や分掌部会及び教科会等において、業務内容を精選し、効率的かつ効果的な教育内容となるよう検討する。
 - エ 教職員の時間外業務を極力削減させるとともに、年次休暇等の取得を促進する。
- (2) 広報活動を充実させ、本校の教育実践を保護者や都民に発信する
- ア 本校が中学生から選ばれる学校になるために調査し、改革のためのプランを策定する。
 - イ 学校紹介パンフレットなどの広報内容の充実を図り、中学校、学習塾等に対して積極的に広報活動を展開する。
 - ウ 総務部を中心に全教員の協力体制によりホームページの充実と定期的な更新に努めるほか、公式 Twitter 等により、適宜適時な情報発信を行う。
 - エ 学校説明会、中学校等訪問、公開授業等を全校体制で実施する。
- (3) 全教育活動において、学校外の機関との連携をさらに促進する。
- ア 学校運営協議会、防災会議、いじめ防止対策会議等の検討内容を学校運営に活かす。
 - イ 日常の教育活動において、地域や関係機関、小・中学校、警察、消防、児童相談所、子ども家庭支援センター、サポート・ステーション等との連携・協力を深める。
- (4) 本校通信制との相互交流による教育課程の弾力的な運用を図る。
- 【特別活動・その他】
- (1) 特別活動の充実を図り、自主的・主体的・実践的な態度を育成する
- ア スクールリーダーを育成する。
 - イ 各委員会活動の内容充実を図り、自主・自立の精神を育む。
 - ウ 部活動を奨励するとともに、スポーツ大会、文化祭、修学旅行、校外学習等の企画運営について更なる充実を図る。
 - エ I 部・II 部・III 部の生徒が一緒に行う学校行事を増加・充実させるため、諸条件を整備し、生徒の自主的な活動を支援する。
- (2) オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- ア オリンピック・パラリンピック教育を通じて異文化や自国の文化の理解と、障害者スポーツへの理解の促進に努める。
 - イ 東京 2020 大会以降のレガシー構築を見据え、継続的な推進体制を構築する。
- (3) 生徒の体力向上に向け、体力向上施策を推進する。
- ア 「アクティブプラン to 2020」に基づき、生徒の体力向上に向け、保健体育の授業の改善、部活動のさらなる振興、スポーツ大会など学校行事の改善と取組の強化を行う。
- (4) ICT 環境の整備を図り、ICT を活用した教育活動の拡充を図る
- ア 授業で ICT 機器を積極的に活用し、学習効率の向上を図る。
 - イ 電子メールを活用し、学校と家庭及び教員間の密で効率的な連絡体制を定着させる。
- (5) 教育環境の計画的整備と保全確保を行い、常に安心できれいな学校を保つ
- ア 校内を定期的に点検・整備するとともに、清掃委託業務と生徒の活動等を合わせて校舎内の美化を推進する。

IV<<数値目標：>> ()内は昨年度数値

1	不登校発生率	4.5%以下 (4.7%)
2	不登校解消率	70%以上 (69%)
3	中途退学者	12名以下 (1名)
4	年間皆勤生徒	各年次 10% (12.3/7.4/7.2%)
5	年間精勤生徒 (遅刻、早退、欠席の合計数が10回以内)	各年次 30% (47.3/44.4/45.7%)
6	生徒の家庭学習の定着 (家庭学習時間)	1日1時間 (26分)
7	特別活動の充実 (部活動加入率)	60% (51.7%)
8	卒業生徒の進路決定率	90%以上 (90.6%)
9	四大・短大進学希望者の進学率	90%以上 (95.8%)
10	学校ホームページアクセス件数 (年間)	120,000件以上 (128,052)
11	入試倍率 (分割前期・後期)	前期 1.3倍、後期 1.2倍 (前期 1.27倍 後期 0.88倍)
12	生徒による授業評価 授業満足度	90% (74.0→82.7→83.0%)
13	学校評価 学校満足度	80% (78.2%)
14	学校説明会参加者数 (校内実施分)	1,200名以上 (1,328名)
15	未読書率 (年間1冊も本を読まなかった生徒の割合)	40%以下 (37.0%)